



竹下景子 (俳優)

愛知県出身。'73年NHK『波の塔』で本格デビュー。「君たちはどう生きるか」をはじめジブリ作品への声の出演も多数。'05年「愛・地球博」では日本館総館長を務めるなど幅広く活動している。

「迷子になるって楽しい！ そんな気持ちにさせてくれます」

ジブリパーク を歩いて Vol.1

風が舞い、花や木々が躍る。緑あふれる愛・地球博記念公園に溶け込むように生まれたジブリパーク。スタジオジブリ作品や地元東海地方ゆかりの方が肌で感じたことを語ります。「ジブリパークを歩いて」。初回は俳優竹下景子さんです。

「ジブリパークを歩いてみていかがでしたか？」

新しくできた「魔女の谷」に向かう途中で、実際に走るネコバス（APMネコバス）とすれ違ったとき「ああ！こはもうジブリの世界だわ」と感じました。そして「ハウルの城」に行ったら、城の一部が動いていて、煙突からは煙も出て、今にも走り出すんじゃないかというくらいの迫力でした。



「ハウルの城」の迫力に感動！

「ハウルの城」も「オキノ邸」もそうですが、展示されているものが実際に触れることにも驚きます。例えば卵なんかは決して実物ではないのですが、持ってみると実際の卵の重さを感じましたし、台所の鍋の底のすすけた感じや冷蔵庫の中のものなど本当にリアル。展示のひとつひとつが物語の登場人物たちの息吹をそのまま運んできてくれて、私自身が物語の中に入っているふと振り返ったらハウルやキキがいるような、そんな感覚になるんです。徹底した非日常

常なんだけれども、一方で同じくらい生活感もあるという、その相反するものが同時にある贅沢さと楽しさと、ときに奇抜さと、その「ごった煮感」がすごいですよ。そういうものが怒涛のよう押し寄せてきて、「迷子になるって楽しい！」っていう気持ちになりました。

「特に印象に残ったものは？」

「オキノ邸」で流れていたモンキーズのレコードに心をわしづかみにされました！高校2年生のときにバス停でよく歌いながらバスを待っていたので、一気に青春時代にタイムスリップしてしまっ（笑）。「ジブリの大倉庫」の企画展示の『コクリコ坂から』の台所にあったクレンザーも懐かしかったです。そういう物語では描かれていない部分まで体験できる点や、世代によっていろんな楽しみ方ができるのも魅力ですよ。魔女の谷の「グーチョキパン屋」の前を通ったらいい匂いがし



「魔女の谷」にあるジブリ作品をモチーフに装飾された「メリーゴーランド」

て、今度は触れるだけじゃなくて実際にパンが買えると聞いて、思わずお土産に買ってしまいました。随所に散りばめられた「本物感」がとつともなくて、宮崎吾朗さんはじめジブリパークに携わっている方たちの心意気を感じます。

「ジブリパークは、愛知万博の理念を継承しています。竹下さんは万博で日本館総館長を務められていましたが、久しぶりに訪れてどんなお気持ちですか？」

当時の主な道や池はそのまま。でも、緑が濃く大きく育っていて19年の歳月を感じました…（笑）。目玉展示の一つだった冷凍マンモスの会場がまさに「ジブ



「ジブリの大倉庫」のめぐるめく世界を散策

リの大倉庫」へと生まれ変わっていて、中を歩いてみるとその変身ぶりに驚きました。今日は大きな褒美をいただいたような気持ち。公園でありながら、美術館、博物館、遊園地といった多角的に楽しめる要素もあって、愛知万博の心を愛するお客さまに加えて地球規模でたくさんの方々に来てくださるんじゃないかと思うとすごく嬉しいんです。

「これからジブリパークに行ってみようと考えている読者にメッセージを！」

今回訪れてみて、私自身、何度でも足を運びたいと思いました。日常を離れて思いっきり童心に帰るもよし、青春時代を振り返るもよし、そのときなりたい自分になって楽しめるんじゃないかなという気がします。皆さんも時間を忘れて迷子になって楽しんでいただければと思います。

ジブリパークは予約制こちらをチェック

